みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年１２月８日　第１７号

東　輝

「人権」を「自分事」として考える

人権集中学習の手始めとしての話を聞き、感じたこと・考えたことなどを書いてもらっています。今年は提出を強制しなかったものの、計４２名の生徒が作文を提出してくれました。
全員分の文章を載せたいところですが、紙面の都合上、一部の生徒のものを紹介します。本人の了解を得て、多少表現を変えたり、途中を要約したりしています。

■小林　愛菜
話を聞いて心に残ったことは人権の光と影に関することです。影の部分は戦争や大量虐殺などがあり、人権が守られていないこと。光の部分は、一方でそれを止めようとする人や、人権を守る活動をする人がいることを知りました。この話を聞いて、私は光のような活動をする人や、したいと思う人を増やしたいと思いました。そのためには、まず一人一人の意識を変えて、自分にもできることを見つけることが大切だと思いました。例えば、世界人権宣言について調べてみたり、今日の話を家族に話したりするだけでも良いと思うので、小さなことでもできることをすることが大切だと感じました。私も、普段人権について考える時間がないので、人権週間の機会に、当たり前だと思っていた人権の大切さについて考えてみようと思います。

■小倉　虹奈
私が人権を守るため、尊重するために必要だと思ったことは「意識」です。人権意識、当事者意識など、講話の中で何回も話していました。１人１人の意識を変えること、そうなれば人権を守り、尊重できると思いました。例えば、クラスでいじめが起こったときに、加害者と被害者以外になることが多いはずです。そんなときに、周りから静かに見守ったりするだけでなく、意識を変えることで、被害者を救うための行動を取ることができます。もちろん被害者が行動を取ることも大切ですが、誰にも相談できないまま被害者１人で解決するのは難しいです。だから、まず自分から意識を見つめ直して変え、身近な人権から守れたらいいと思います。

■津久井　こころ
「人権」と言われるとやっぱり「いじめ」や「ＳＮＳなどの誹謗中傷」「障がい者や女性への差別」などが頭に浮かんでくる。でも、それ以外にも「１人１人の自由」も人権に大いに入っていることを知った。そのような問題は、今現在でもたくさんの国で広がっている。この人権問題をなくすためには、世界中のたくさんの人々の力が必要で、１人だけではどうにもならない。なので、１人１人が人権についてよく知る必要性があり、たくさんの人が自分事として考え行動することが大切だと思った。そのような１人１人の行動があって、この世界は少しずつでも変わったり、進化したりできるのではないかなと深く強く考えることができた。なので、これからは人に対しての態度や接し方など、自分にもできることがないのかもう一度改めてよく考え、いろいろな人たちの立場になって行動することを、もっともっと多くしていきたいと思った。また、もっといろいろな人たちに「人権」というものを知ってもらって、平和で暮らしやすく、個人の意見や意思を出しやすい世界になってほしいと思ったし、そうしていきたい。

■栗原　一嘉
人は弱いところやずるいところがあります。それを優先しないことが大切です。

■前原　璃子
「当事者意識」をもつことが大切なんだなと思いました。今、世界にある問題の中に「人権」という大きなくくりがあります。その中で「人との関わり」によって問題が起きてしまっていることもあります。戦争もその一例で、日本も今攻めているわけでもなく攻められている訳ではないこともあり、自分事として捉える人は少ないと思います。
ですが、同じ人間がお互いを苦しめるような行為をしています。これは他人事ではありません。辛い思いをしている人がたくさんいます。いつ自分の身に何が起きるかそんなのわかりません。だから、「当事者意識」を高めることが重要だと感じます。戦争も立派な人権侵害です。これからどうしていけばいいのか、これを考えながら過ごしていくのが、これからの私達にとって一番大切なことだと思います。

（裏面に続く）

■須田　崇太

　世界人権宣言が発表された今も人権が守られていない国が近くにあるなあと思った。その国では不当な罰や、職業をあまり選べないなど、色々と人権が守られていなく、とても生きていくには不自由な国だと思っている。

　そうした国を変えるためには、外にいる我々他国が協力していかないとと思った。今は環境問題、少子高齢化など色々な問題を抱える中、これを解決するのは正直難しいなと思った。それと戦争も人権が守られていない行いだと思った。自国のためだけに他国を侵攻して一般市民にまで危害を加えるのは、とても人権が守られているとは思えない。今はウクライナ戦争やイスラエルとハマスの戦争などがニュースで多く取り上げられていて、人々の関心も高いと思う。完全になくすことはできなくても、減らすことは可能だと思うので、その方法を見つけていきたいと思った。

■小池　莉梛

　「人権」には光と影がある。「世界人権宣言」を採択しても未だに戦争が起こったりしているのは、宣言を守っていない、守ろうとしていないのではないかと思った。戦争のような大きな課題もあれば、「いじめ」や「障がい者差別」「人種差別」など、身近な問題もたくさんあることに気づいた。歴史的に見るとガンジーやキング牧師など、人生を賭けて人々の人権を守ろうとした人がいる中で、いじめや差別などの問題から、戦争…とたくさんの問題が出てきてしまっていると気づきました。人生を賭けて守ってくれる人がいるのに、今を生きる私たちは、何か解決するために取り組めているのかと、疑問に思いました。戦争は世界的な問題ですが、「いじめ」「障がい者」などの問題は私たちの身近にあり、私たちの力で解決できると思いました。身近にいる人がもっている人権から守っていこうと思いました。

■大賀　心愛

　私は、人の権利を守るため、１人１人が「人権の闇」に気付き、人種や国境を越えて互いを思いやり、意識するようになってほしいと思いました。そして、自分自身も身の回りの「人権の闇」に気付き、そこから、国、世界へと視野を広げ、起こっている問題を知り、少しでも人権を侵害されてしまっている人々の役に立つような行動をしたいです。同時に、自分が「人権を侵害する側」にならないよう、言葉、行動の一つ一つに責任をもって生活していきたいです。

■稲葉　悠斗

　話の中で心に残ったことは、人権は昔からずっとあったものではなく、時間をかけて獲得してきたということです。自分たちは日本で生まれ、幸せだと思える生活をしてきたのは、この昔の人たちの努力の結晶なんだと思い知らされた。しかし、まだ現在でも人権を侵害されている人がたくさんいて、昔の人々が積み上げてくれた努力の結晶を壊してはいけないと思った。自分たちは幸運で感謝しなくてはいけないし、人権侵害されている人を守っていき、この世界をよりよくしていきたい。

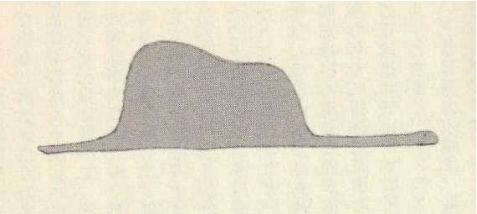
・・・毎年、世界人権宣言が採択された日（１２月１０日：世界人権デー）に因んで人権集中学習が行われます。基本的人権が守られているからこそ安心して暮らしていけるのであり、権利が守られている状態が当たり前だと思ってはいけないこと、そして、人権尊重の精神と、自らが人権の守り手として行動できる力を高めることが学習の目的の一つです。

　人権集中学習は、まず基調的な話から始まります。毎年、これほど難しいテーマはないと思いながら話をしますが、そして、人様に偉そうなことを言えない人間が話をしていますが、どんな話をしたかは、大東中のポータルサイトに資料を載せたいと思います。

　また、今年は、生徒に対して「８つの問い」を投げかけてみました。おそらく中学生にとってはかなり抽象的でわかりづらい問いですが、一人でも多くの生徒が人権を「自分事」、そして「当事者意識」をもって捉え、自らを見つめ直すきっかけにしてくれたら、と思って問いかけてみました。問いかけ自体がメッセージでもありますが。

　また、考えたことを言語化することは自分の考えを整理することにつながるため、例年、講話を聞いた後に感想のようなものを書くのが通例となっています。やり方は少し変えましたが、その一部が上記の文章です。

　今年は任意提出にしてみましたが、任意にした分、その文章を読んでいると書いた生徒の「心根」が見えてくるような気がします。そして、生徒から学ぶことも多い気がします。いつも思いますが、心根が綺麗なまま、そして講話の中でも触れた「上品（じょうぼん）」と思われるような大人になってくれれば、と思っています。



　また、使用したプレゼン資料の最後に右のイラストを載せました。子どもたちに何のイラストか知っているか聞いてみたかったのですが、あえて聞きませんでした。ある程度有名な絵なので、知っている人も多いと思います。

　この絵の意味することも、最近とても気になっています。